

日本とシェイクスピア

豊田, 實

<https://doi.org/10.15017/2557049>

出版情報 : 文學研究. 16, pp.118-128, 1936-07-28. 九州文學會
バージョン :
権利関係 :



日本とシェイクスピア

豊 田 實

今夕は日本シェイクスピア協會の設立以來七周年目のシェイクスピア記念祭に當りまして、私がお話を致すことになりました。簡単に日本とシェイクスピアと題しましたが、私が國に於てシェイクスピアが是迄どんな徑路で紹介され、進んでは研究されて來たかについてお話しようと思ひます。尤もこの事に關しましては既に發表された研究調査の結果もありますので、私のお話もそれらに負ふ所が多いのであります。

日英兩國の交通はシェイクスピアの存命中に一旦始つたのであります、其時はシェイクスピアの名さへ日本には傳はらなかつたやうであります。且その交通は短期で中止され、その中に鎖國となり、日英通商の復活は遂に安政年間迄押し延べられることになつたのであります。然るに日本の洋學と言へば殆どまだ蘭學の獨舞臺でありました文化七年（西曆では一八一〇）の正月江戸の市村座で上演されました『心謎解色絲』こころのなぞとけいろいとといふ芝居とシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』との間の類似が、わが國の批評家の注意に上つて居ります。『心謎解色絲』は勝俣藏即ち後の鶴屋大南北と二世櫻田治助の合作でありまして、その中でシェイクスピアの戯曲と似て居りますのは、南北が糸屋の娘の傳説を改竄した部分であります。私もこの二つの芝居を詳しく比較して見ましたが、その間にはかなりの類似があ

ります。即ち一方が赤城家といふ武家と町家の糸屋とを對立せしめてゐるのに對して、他方はイタリアの舊家を對立せしめ、ロミオと綱五郎とは共に放逐の身となり、花嫁になる筈のデュリエットとお房が共に魔睡劑のために暫時假死状態に陥り、その毒藥の調合者は、一方は僧のロレンス他は醫者の東林となつて居ります。且お房は知らずして毒藥を吞まされて二十四時間假死状態に陥り、デュリエットは自ら知つて服藥して四十二時間眠つたのであります。又シェイクスピアの方では悲劇であるのが南北の方では喜劇になつてゐること、其他種々の相異點は、この兩劇の關係を肯定すれば、「換骨奪胎の妙」を得てゐると言ひ得るでありませう。且是等二つの間に關係ありとすれば、伊原青々園氏等も想像され、且其後竹村覺氏が敷衍説明されましたやうに、長崎出島のオランダ屋敷で或は其頃演ぜられたかもしれぬ『ロミオとデュリエット』の筋が南北の耳に入つたと想像するのが最も眞に近いでありませう。然し其頃果して出島でシェイクスピア物が演ぜられたかについては確實に知られてゐるわけではありません。且其頃オランダとイギリスは敵對關係にあつたのであります。又他方に於て埋葬された戀人が蘇生するといつた話の筋は、シェイクスピア迄行かなくても、當時日本でも讀まれてゐたと思はれます『聊齋志異』などの中にも見出せるのであります。要するに東西のこの二つの芝居の間の因果關係は未だ確定的とは言へないものゝやうであります。なほ井原氏は近松の『釋迦如來誕生會』の中に、脚の肉を切つて秤にかけるところがあるのと、『ヴェニス商人』中の所謂人肉質入裁判とを比較して、何れも釋迦に關する印度の傳説がもとで、一方は波斯を経て歐洲に傳はり、他方は支那を経て日本へ來たものであらうと述べられて居ります。

『心謎解色絲』が市村座で上演されたのが文化七年の正月でありますから、それが書き下されたのは前年でありませ

う。然るにこの文化六年はその前の年の長崎における英船フェイトン號の狼藉が原因で、國防の動機から幕府が長崎のオランダ語通詞に英學の兼修を命じた年であります。斯る次第でありますから、シェイクスピアの名も最初は蘭學者を通して日本へ傳はることになりました。天保十一、二年にかけて天文方見習澁川敬直が譯出しました『英文鑑』といふ英文典があります。是はリンドレ・マレの英文典を蘭譯から重譯したものでありますが、その中の下編に、竹村氏が先づ指摘されましたやうに、シェイクスピアの名が「シャークスビール」と出て居ります。同じ場所にはミルトン其他の名も列擧されて居りますが、譯者は各文人の特徴に關する説明を作品の名と誤解して居ります。わが國の文獻中シェイクスピアの名を含む其次に古いものは支那系のものであります。陳逢衡といふ支那人の記しました『嘆喟喇紀略』に我が津藩の荒木塞が訓點を施して嘉永六年に翻譯上梓しましたものの中に、有_下善_上作_下詩文_上者四人_上としてシェイクスピア、ミルトン、スペンサー、ティロットソンの名が列擧されて居ります。その次は文久元年長門の溫知社で訓點を附して翻譯しました漢譯本『英國史』であります。此本は清國に渡來しました基督教宣教師英人のウィリアム・ミューヘッドが恐らくトマス・ミルナーといふ人の英國史を漢譯したものでありますが、その第五卷の終にエリザベス朝の詩文に就いて簡單に記した所がありまして、其處にミルトン、スペンサーと共にシェイクスピアの名が出て居ります。福澤翁の『西洋事情』の初篇が出ましたのは慶應二年でありまして、その中には「文學技術」、英國の「史記」等の項がありますけれども、シェイクスピア、ミルトン等の名は見えません。翁の趣旨が文學になかつたためでありませう。

明治になりますと、その四年に中村敬宇先生の『西國立志篇』が出版されました。是はサミュエル・スマイルズの

『セルフ・ヘルプ』の譯でありまして、此譯書を通しシェイクスピアの小傳と共に『ハムレット』中の一句、ポローニウスがわが子に與へた訓誡さへ我が國に紹介されたのであります。此譯は尤も時代が古いだけに誤譯がないわけではありませんが、漢字の知識の豊富な敬宇先生の筆に成つただけに、今も種々参考になる點があります。明治七年には雑誌ヂャパン・パンチに『ハムレット』第三幕中の獨白の途中迄の譯が現はれました。日本へ來てゐました英國の通信員で繪もかいたチャールズ・ワーグマンのローマ字譯でありまして、To be, or not to be: that is the question: が Arimas, arimaseu, are wa nan deska と譯され、後もかうした調子のものでありまして、眞面目な譯とは思はれません。尙この獨白だけについて申せば、明治十五年の『新體詩抄』に含まれて居ります外山、矢田部兩教授それぞれの譯は有名なものであります。尙この『新體詩抄』中にはシェイクスピアの他の劇『ヘンリ四世第二部』の一節『ヘンリ八世』の一節の譯や、グレイ、テニスン、ロングフエロー其他の詩人の作品の譯も含まれて居ります。但しシェイクスピアの戯曲の一節の譯は是以前にもあるのでありまして、西周がヂョゼフ・ヘイヴンの『メンタル・フィロソフィ』を譯しました『心理學』の下冊（明治十二年出版）の中に『ヘンリ四世第一部』の一節が七五調に譯されて居ります。シェイクスピア物の翻案はもつと以前からあります。明治八年には恐らく假名垣魯文による『ハムレット』の院本風の翻案が『平假名繪入新聞』に掲載されたとの事ですが、私はまだ見ないのであります。十九年に『東京繪入新聞』に出ました魯文の『葉武列士倭錦繪』は同じ系統のものでありませうが、その内容は明後日早稲田におけるシェイクスピア記念講演會で頒布されることになつてゐるやうであります。明治十年の暮には慶應義塾から出て居りました『民間雜誌』の九十八號と次號に亘つて『胸肉の奇訟』即ち胸の肉に關する變つた訴訟事件といふのが掲載されま

した。是は『ヴェニス商人』の翻案であります。この場面は只今も大阪から放送されましたが、『民間雑誌』のは翻案であります。翻案者の名は記してありません。林董といふ想像説もありますが、確^{しか}とはわかりません。この翻案では法廷の場が泉州堺の問詰所となつて居りまして、ポーシャは住吉の豪家の娘清香、シャイロックは欲張頑八となつて居ります。挿畫もありまして、ポーシャは烏帽子を被り、シャイロックは丁髷姿で傍に出刃庖丁を置いてゐるといふ有様であります。

此頃からシェイクスピア物の筋書的なものも出来てきました。河竹默阿彌手記の『ハムレット』の筋書は明治十一、二年頃のものらしく、明治十二年には和田垣博士がまだ東京大學々生時代夏休に箱根で書かれた『李王』といふのがあります。是は『キング・リア』の筋を漢文で簡単に綴られたもので、その原稿は早稲田の坪内博士演劇博物館に保存されてあります。李王者英國之王也。資性聰明。及王即位百廢共起。惡弊立止。民各樂其業。王有女三。といった調子であります。和田垣氏は井上哲次郎、岡倉覺三の諸氏と共に翌明治十三年に東京大學の文學部第一回卒業生となられたのでありますが、當時同大學では米人教師ウィリアム・ホートンがシェイクスピア其他を講じてゐたのであります。尚ホートンの前には東京大學の前身東京開成學校で英人教師デヴィムズ・サマーズが英語、英文學、論理學を講じたのであります。日本人でシェイクスピアを講じた最初の人は高田早苗博士であります。同氏がまだ東京大學の學生時代、本郷の進文學社で内職をされ、ホートンから教へたシェイクスピアを其處でいはゞ受け賣りされたのであります。和田垣氏が大學三年の時高田氏は一年で、坪内雄藏、有賀長雄の諸氏が同級であり、一級上には都築馨六、嘉納治五郎の諸氏が居られ、また高田氏が教へられた當時の進文學舎には三上參次氏などが居られたとこのことであり

ます。

次にシェイクスピアの略傳に關しましては、『西國立志篇』の後では、明治十二年吉田五十穂譯纂『伊呂波分西洋人名字引』中に二頁に亘つての紹介があるとのことであり、翌十三年の乾立夫譯『泰西名士鑑上編』中には七頁に亘つてのシェイクスピア傳があります。

明治十六年にはシェイクスピアの原作のまとまつた譯が初めて我が國に現はれました。即ちこの年には河島敬藏譯

『歐洲戯曲ジュリアス・シーザルの劇』が『日本立憲政黨新聞』に連載されたのであります。是は明治十九年に『羅馬盛衰

鑑』と題し、單行本として出版されました。河島翁は坪内博士と同じく安政六年の生れで、博士の後を追ふが如く昨

年の春なくなりましたが、同翁に就ては竹村覺氏の詳しい紹介がありますので、今は二三述べるに止めます。河島氏

はなほ數篇のシェイクスピアの戯曲を譯しましたが、其中出版されたものは『シーザー』の外には『ロミオとジュ

リエット』の譯があるのみであります。是は明治十九年に『露妙樹利戯曲 春情浮世之夢』として出版されました。かゝる

次第でシェイクスピアの作中特に『シーザー』の原文からの譯が先づ現はれたのでありますが、是は此頃の世相を顧

みますと偶然ではなかつたやうであります。國會開設の詔勅が發せられたのが明治十四年でありまして、其年から

翌年にかけて自由黨、立憲政黨、改進黨等の政黨が生れ出で、十五年の四月には板垣退助が岐阜で刺されるといふ情

況で、當時わが國民は擧つて政治問題に熱中してゐたのでありますから、かゝる世情の下にシェイクスピアの多くの

作中、特に『シーザー』が我が國に紹介されたのは至極尤もな次第であつたのであります。

明治十六年にはラムのシェイクスピア物語からの邦譯も二つ出て居ります。翠嵐先生即ち藤田鳴鶴による『アズ・ユ

1・ライク・イト』の譯及び井上勤の『ヴェニスの商人』の譯即ち『人肉質入裁判』で、是は版を重ねて大いに讀まれたものであります。

明治十七年には坪内博士の『該撒 自由太刀餘波銳鋒』が出て居ります。是は原作からの譯でありまして、奥附

を見ますと十六年出版のやうにも見えますが、題字の日附は十七年でありますし、博士自身も十七年出版のことを認めて居られたのであります。此年以後日本におけるシェイクスピア物の譯は急速度で増加して居りますので、枚舉することは致しません。たゞ先づラムの物語からの特に注意す可きものを挙げますと、早い頃のものとしては仁田桂次郎氏による『冬物語』、『因果物語』(Measure for Measure) 其他尙三つの物語の譯があり、品田太吉氏の名で出ました『ハムレット』を初め六つの物語の譯があります。又和田萬吉氏學生時代の『みなれざを』があります。是は *That Ends Well* の譯で明治廿一年の出版でありますが、終の方が謡曲風にしてある點でも注意す可きものであります。その後のラムの物語の譯の中に、明治三十七年出版、小松武治氏の『沙翁物語集』があり、この巻頭にはシェイクスピアの名句の氣分を漱石が俳句で現はした興味ある一種の序がついて居ります。昭和になつて注意す可きものの中には、二年に出ました名作大觀第二部十一巻中の平田禿木氏の譯、七年岩波出版の野上彌生女史の譯等があります。次に明治十七年以後における原作からの譯の中、先づ纏つたもので注意す可きは戸澤姑射、淺野馮虛兩文學士の分擔による全譯の企圖でありまして、明治三十八年から四十二年にかけて十編だけ出て、中止されました。是はその第一冊『ハムレット』の序でもわかりますやうに、兩文學士の恩師小泉八雲の勧告に基づいて企てられたもので學的良好に満ちた立派な譯であります。さうしてこの兩氏によるシェイクスピア全譯の企圖が中止された明治四十二年に坪内

博士による沙翁傑作集の出版が開始され、是も亦『ハムレット』を以て始められましたが、この企は其後全譯を目標とするに至り、昭和三年に完成したのであります。且八年には新修シェイクスピアが始め、爾來昨年の二月博士が長逝される時まで改訂の完成に従事されたことは世間にもよく知られて居ることであります。

坪内博士の譯がかく進行して居ります間に、種々の人々によつてシェイクスピアの原作の幾つかの譯や註釋が試みられたのであります。先づ譯の中で比較的古い所で注意す可きものに明治二十一年渡邊治の『鏡花水月』があります。是は *Comedy of Errors* の譯でありますが、純然たる國語譯の文體からも注意す可きものであります。第四幕第三場のシラキューズのアンティフォラスの語を少し讀んで見ませう。是は人違ひで、到る所で豫期せぬ好遇を受けた彼が目をばちくりさせてゐる所であります。「世に不思議もあればあるもの、今日の我身の仕合はどうした事かは知らねども、見も知りもせぬ他人より丁寧な挨拶受け、わが名を正しくアンティフォラスと呼ぶのみか、金を貸せとも云はぬ先より、態々貸して呉れるものもあり、或るは又由縁もないに信切に馳走する人もあり、又最前は、仕立屋が自分の店へ己れをつれゆき「旦那さまのお誂ひに爲りましたこの絹切れ、一應御覽なされませ、直ぐ御寸尺を取りまじやう」と服を新調して呉れる人のあらうとは、不思議でならぬ」といつた文體であります。なほ大正二年森鷗外の『マクベス』はこの頃の純然たる現代語譯として珍重さる可きものであり、近頃出ましたこの系統の譯としては本多顯彰氏の『ハムレット』及び『ロミオとジュリエット』等は特に注意さる可きものであります。

次に譯註又は註釋の方面では明治廿四年の磯邊彌一郎講述『人肉質入裁 判法廷之場 講義錄』及び同じ頃『早稻田文學』に出ました坪内博士の『マクベス』の初め二幕の譯註などは古い方であります。二十五年村田祐治氏が『日本英學新誌』

に寄稿された「ハムレット詳解」は出色のものであり、同年には又大倉本澄といふ人の『シーザー』の譯註が單行本で出て居ります。もつと新しい所で名譯註とされてゐるものに四十二年の菅野德助氏の『オセロ』があり、我が國に於ける最も纏つたシェイクスピア物の詳註としては大正十年から昭和七年に亘る研究社英文學叢書中に市河博士が擔任された十三の劇があり、同叢書中にはなほシェイクスピアの作品中劇以外のもの、即ち長詩及び十四行詩を岡倉教授が註されて居ります。尙其後も都築、浦口、澤村、細江等の錚々たるシェイクスピア學者の註又は譯註が囁々として現はれる事は誠に心強いことであります。

傳記の方面では單行本では博文館世界歴史譚中の一編で明治三十四年發行の中村可雄著『シェイクスピア』が恐らく初めであるらしく、大正五年には齋藤勇教授講師時代の著『シェイクスピア、彼の生涯及び作物』が出て居ります。又比較的早い頃の研究としては四十三年の平田元吉氏の『ハムレット劇研究』は坪内博士が推獎されたものであります。尙近年には故横山教授の研究があり、又昨年研究社評傳叢書中に出了た土居教授の『シェイクスピア』は簡單であります、非常に有益で興味深いものであります。

次には各大學や専門學校におけるシェイクスピアに關する講義のことも述べたいのでありますが、今度は割愛します。さうして残りの時間を以て我が國に於けるシェイクスピア物の上演史について一言することに致し、三期に分けて述べることに致します。

第一期は明治十八年から三十九年即ち文藝協會の設立迄であります。前に述べました『心謎解色絲』を別としますと、我が國におけるシェイクスピア物上演の最初は明治十八年大阪戎座における『何櫻彼櫻錢世中』であります。是は

『ヴェニス商人』でありまして、小宮山天香の思ひつきによつて宇田川文海が翻案したものとされて居ります。全く日本化された翻案劇であります。日本で芝居と言へば歌舞伎であつた時代として當然のことと思はれます。明治三十四年七月には伊井、深澤、福島等の諸氏により明治座で『デュリアス・シーザー』が上演されましたが、是はその前月に星亨が東京市會議事堂で刺されたことからの思ひつきのやうであります。三十五年には高安月郊翻案の『闇と光』即ち『キング・リア』が福井、村田の諸俳優によつて京都の南座及び神戸で上演されました。この題名はダウデンのシェイクスピア評傳からの思ひつきだつたさうであります。三十六年には二度目の外遊から歸朝した川上晋次郎が貞奴と共に東京で『オセロ』を上演しました。原作のまゝといふ觸れ込みでしたが、實は翻案でヴェニスは東京に、サイブラスは臺灣に變へられ、人物の名前までが翻案であります。即ちムアのおセロが室鷲郎、イアーゴが伊屋剛藏、デスデモナが軻音、エミリアがお宮といった有様であります。さうして全體を六幕十一場とし、終にはイアーゴがキャシオの部下から一齊射撃で倒されることになつて居ります。この頃からシェイクスピア物が次第に上演されるやうになり、殊に川上一座は田舎廻りをして之を普及させたものでありますが、この第一期は要するに翻案劇上場の時期であつたのであります。

明治三十八年に易風會ができ、翌年それが文藝協會となり、坪内博士がその會長となられる頃からわが國におけるシェイクスピア物の上演は初めてその緒についたと言ひ得るであります。坪内博士指導の下に三十九年の暮に『ヴェニスの商人』法廷の場が演ぜられ、翌年には『ハムレット』が三幕として演ぜられ、是等はその後も繰り返されましたが、明治四十四年文藝協會の同人による帝劇における『ハムレット』の上場は時代を劃するものであります。是は我が國におけるこの劇全部の初めての上演であり、且土肥春曙のハムレットは實にすぐれた出來榮であつたと言

はれてゐます。然し大正二年には文藝協會は解散したのであります。是には種々の原因があつたでありませうが、市川左團次と小山内薫共同の自由劇場がイブセン、ゴルキイ、ハウプトマン等のものを上演し出したのに壓倒された形でもあつたのであります。文藝協會の解散は即ち藝術座、無名會、舞臺協會への分裂となつたのでありますが、この中、無名會がシェイクスピア物の上演には最も功勞が多かつたのであります。然し他の二つも幾つかは上演し、又やはり坪内門下の上山草人等の近代劇協會、守田勘彌及び林和氏やすしの文藝座も數編を土場し、坪内士行が無名會及び舞臺協會と共同してシェイクスピア物を演じたのも記憶さる可きであります。さうしてかういふ状態で大正十二年の大震災に逢著したのであります。

震災は凡てのものゝ面目を一新しましたやうに、我が國におけるシェイクスピア上演史も之を境として第三期に入つたのであります。震災後暫くはシェイクスピアの時代は全く過ぎたやうに思はれ、そのみならず昨日迄榮えたイブセン、ハウプトマン、ストリンドベリイさへも古くなつたやうに思はれたのであります。さうしてゲオルグ・カイザー、エルンスト・トラー、ルイデ・ビランデルロなどが一時人氣を博し、偶々シェイクスピア物が上演さるれば、市川左團次、松本幸四郎等によつて歌舞伎座で行はれるといふ有様でありました。然しその間にあつて、土場したものは少數でも築地小劇場がシェイクスピア物の研究的な演出を試みて來ましたことは多とす可きであります。なほ明治廿九年以來の東京アマチュア・ドラマティック・クラブ即ちA.D.C.が屢々シェイクスピア物を上演したこと、地球座がシェイクスピア物の演出に近代服裝を試みたことなども言つて置く可きでありませう。尙わが國の映畫館におけるシェイクスピア物の出現は明治四十二、三年以來のこのやうであります。是で私の話を終ることに致します。

(日本シェイクスピア協會の依頼により昭和十一年四月廿三日のシェイクスピア記念祭に際し福岡放送局より全國中繼にて放送)